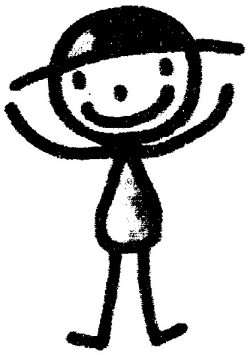
上田地域もの・こと交換制度

蚕都くらぶ

ま～ゆ



蚕都くらぶま～ゆ会報 No.12 2003年7月10日発行

ま～ゆ連絡先　代表 安井啓子

〒386-0001　上田市 上田 2576-16

TEL/FAX　27-3186

メール　ma-yu@ml.melma.com

ホームページ　http://www9.ueda.ne.jp/~ma-yu/

棚田の田植えに参加して

No.55 前田美枝子

今年も須川の田んぼを作ると聞いて「今年こそは参加できる」とはりきった。先にま～ゆに入っていた都々平より須川の景色のよさや、山の植物がいっぱいあることなど聞いていた。

初めての須川は道が心配だった。坂が急になり、また細くもなった。どの辺りだろう。気にしながら上っていくと、右手に棚田が見えてきた。どこかなと車を先に進めると、あった、あったごんべいさんの車が。身支度をして田んぼに降りていくと安井さんに「どこかの農家の人が手伝いにきてくれたと思ったわよ」と言われてしまった。プリントの作業帽子に黒の腕カバー、田植え長靴、と身支度をしていたからかも…。

早くも７、８人が集まっている。長大の学生さん、城下さん、我孫子さん、いじこさん。まず、植えやすくするために苗を一本、一本分ける仕事から始めた。しゃがみこんでせっせとつむ。苗とりをしているところへ藤倉さんがきた。田んぼプロジェクトに参加すると言っていたのにどうしたのだろうと思っていたら「ちょっと道迷っちゃた」と言っていた。イグサの作業帽子をちゃんとかぶっている。でも田植えは初めてとのこと。「さあ田植え始めよう」と声がかかる。清水さんは「よし」と短パンになる。すごい、はりきっている。久しぶりに手植えができる。私もうきうきする。棚田は小さいから皆が田んぼに並ぶとすぐくっついてしまう。昔は広いところで腰痛くなったねえなんて話しながら植える。下の田んぼへ水を貯めるので植えている田の中は水がいっぱいで苗が植わっているか分からない。石橋さんと「ここは植えたね」と確認しあう。石橋さんちのももちゃんは蛙を両手にはさんで持ってうれしそう。畦道を行ったり、来たり。１枚の田植えが終わって一休みしていると、おじゃるさんの遊び塾の子供たちがやがやとやって来た。前の日は体中で田起こしをして、泥んこになったとか。塾長より「今日はちょっと寒いので、泥あそびはいけません。着ているものをぬらさないようにしましょう」と注意される。下の小さな２枚の田んぼで田植えを始める。おじゃるさんが楽しそうに歌を歌い、私たちもそれを聞きながら、手を動かす。また、少し下の田んぼでは、長大の安井ゼミの田植えが始まっている。あちらの田んぼは、こちらより大きそう、なかなか大変そうだ。途中で柴田さん夫妻到着。小さな田んぼ３枚はお昼の頃にはきれいに植え終わった。皆疲れた様子もない。それよりこの棚田に手で田植えができた満足感でいっぱい。お昼はまたまたすごい。あやさんは大なべに味噌汁をいっぱい作ってきてコンロであたためて出してくれた。焼きそばは柴田さん。きゅうり、トマト、アスパラ、彩りよくサラダが並ぶ。ふきの煮物。私はいまだ娘に「高校の時のおかあさんのお弁当ひどかったね」とうらめしげに言われる弁当おんち。こんなふうに作ればいいのか、とおおいに参考になった。

サーベッチのにぎやかな話し声がする。お昼の時間なのに農家の田んぼでは、３人の人が補植を一生懸命やっている。それを見てごんべいさんは「あれは農業道なんでしょうね」と解説をする。なんとなく分かる気がする。機械で植わった田んぼに、どこか植えてないところはないか一心に見て植えている。こんなお昼の時間に、記者の人があちこちで今日の田植えについてインタビューをしていた。最後に「服装がいいですね」と声をかけられ、ちょっと話をしたら翌日の新聞に載ってしまった！。

これからも田の草とりやいろいろな作業に参加していきたいと思う。時間のとれる人はこれからの作業に参加することをお勧めしたい。楽しいから。

信濃毎日新聞

2003年（平成１５年）5月26日（月曜日）

谷間の棚田に丁寧に田植え

上田の地域通貨グループ

上田市の地域通貨グループ「蚕都（さんと）くらぶ まーゆ」は二十五日、同市諏訪形の「須川の棚田」で田植えをした。同グループのメンバーと長野大学（同市）の学生ら合わせて約六十人が参加した。

植えたのは、須川の谷間にある棚田合わせて約二十㌃。昨年初めて「まーゆ」が田植えをするまで手入れがされず、荒れていた。

「自分たちの食べ物は自分たちで作ろう」と、「まーゆ」の会員有志は約三十人が参加。はだしや長靴で田に入り、丁寧に苗を植えた。作業を終えた同市秋和の主婦前田美枝子さん(五六)は「さわやかな気持ちです。棚田もきれいで、参加してよかった」と話していた。

「まーゆ」は上田地域で、会員ができることや物を交換し、助け合って活性化を目指している。

棚田に苗を植える「まーゆ」のメンバー

５月のま～ゆ市に参加して

№77 竹内文子

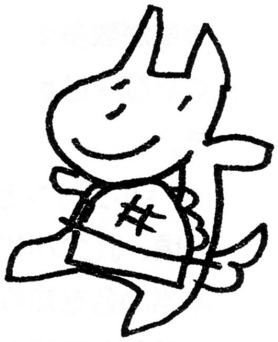
先日の日曜日、機会があれば是非参加したいと思っていた「ま～ゆ市」に夫と一緒に出かけました。

会場に着くと、ちょうど皆さんが「草もち」の準備をされていました。初対面の方が多かったのですが、私も仲間に入ってお手伝いをして、和やかなひと時を過しました。

協力して作ったあんこ・おろし・ごまの「草もち」と、持ち寄った山菜、天ぷら、奈良漬けなどが並んだ会食では、素朴な昔ながらの味を満喫しました。

今回の参加は、「お金」を中心に考える価値観から脱し、「人との関係」や「モノのやりとり」の豊かさを考える機会になったように思います。

まだ「ま～ゆ」について詳しく知りませんが、今後参加していくことで、日々の生活のなかに新しい発見をしていきたい、と思い会員になりました。皆さんよろしくお願いします。



棚田の田植え体験

長野大学大沢樹理

今回で２回目の田植え体験となりました。元々、まーゆの行事に参加したきっかけも、田植えをしてみたいという思いからでした。それまで田植えの経験はまったくなかったのですが、周りでおじいちゃんやおばあちゃんが田植えをしている姿を見るたび、私も是非やってみたいと思っていました。

実際にやってみたところ、思っていた以上に作業は大変で、田んぼの中の移動や苗を植える間隔など２回目でしたがコツをつかむのに時間かかかりました。（長大田んぼは、もっと大変そうでしたが…）それでも、作業しながらの話や、休憩中の話はテレビに出てくるお笑い芸人よりずっとおもしろく、どこからともなく笑いがこぼれてきて時がたつのも忘れてしまっていました。

こうして２回目の田植えを終えて感じたことは、みなさんのパワーでした。「まだまだ若い者には負けない」といったような感じで、「何事もやってみなければ分からない」。「体験しなければ分からない」。と、チャレンジ精神旺盛でした。その中にいて非常に勉強になるし、得ることも多いです。

他県から来て、ここ地元の地域通貨、地域の人の輪に入れてもらえてうれしく思っています。また、貴重な体験をさせていただいていること、感謝します。これからもどうぞよろしくお願いします！

自然ってすごいな！

―須川ホタルコンサートに参加して―

大沢樹理　長野大学２年生岩手県出身
松沢彬子　長野大学２年生新潟県出身

ほたるコンサートの前の植物観察では、見た事はあるけれど、名前を知らない花や草が数多くあり、一つ一つ説明して頂くたび「はぁ～」と感心するばかりでした。

ハルジオンという花については、幼い頃、「ビンボウ草」と呼んでいたので、本当の名を知り「へエ～、なんでビンボウ草なんて呼んでいたのかなぁ」と不思議になってしまいました。けれど一緒に参加していらした方にも「ビンボウ草でしょ！」と言っている方がおり、こっちもこの花の名前なんだ！と思う事にしました。

コンサートは、ま～ゆ以外にも須川の地域の方々など、たくさんの人が来ており、とても盛り上がって良かったと思います。キレイなメロディーが自然に流れ込み、知らない歌でも自然に体が動き楽しかったです。みんなが主役！まさにそういった感じでした。

コンサート後、徐々に暗くなり夜へと変化していくにつれ、山の姿も変わり、１匹のホタルを見つけたときはとても感動しました。そのホタルに誘われるように一匹、また一匹と増えていく様子は、まるで夕暮れ時の街の家々に灯りが点っていくようでした。

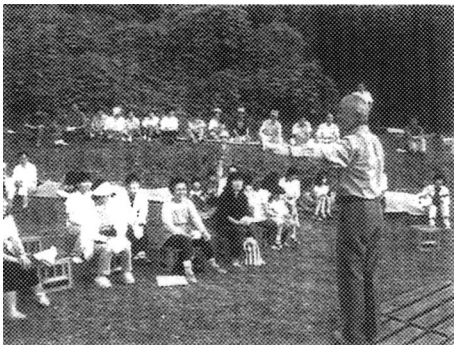
大人の方々は童心に帰り、子供達は新たな発見に胸躍らせているように見えた様子は、とても心和みました。私自身、ホタルを見たのは今回で３回目と、片手に収まってしまう程の回数しかなかったためとても感動しました。

手入れをした訳でもないのにきれいに咲く山の花や、りりしく生きている草、そこに集まる虫などを見ると、自然ってすごいな、と改めて自然の偉大さを感じる事が出来ました。そして、普段、同年代の人との関わりが多いため、この様な地域の方々との交流はとても新鮮で、尚且つ「ホッ」とするすばらしい機会でした。

「須川ホタルと歌う夕べ」は最高に楽しいひと時でした。

４時半頃から三々五々人びとが集まり、まずは斎藤文子さん、藤倉佑子さんを講師に自然観察会の開始。驚きました。いろいろな山野草がいっぱい。カラマツ草、ホタルブクロ、カワラマツバ、シモツケ、ウツボ草、ワレモコウなどなんと約３０種ほどもありました。

５時からいよいよ歌う会のスタート。城南公民館からお借りした青シートや中島さん、柴田さんが用意してくれたビールケースのいすにみんなおもいおもいに座り、古見ファミリーの父のギター、おじょうさんのメロディオンの伴奏と古見ママのリードで、懐かしい歌の数々を歌いました。西沢公子さんの三味線伴奏も加わり座を盛り上げてくれました。遊び塾のおじゃると子どもたちがとっても楽しいうたやオカリナを演奏してみんなから拍手喝采。



名司会進行の中島ごんべいさん、黒田弘志さんのリードも見事なものでした。青木自治会長さんはじめ地元のおじちゃん、おばちゃん、子どもたちもいっぱい来てくれました。もちろんまーゆの仲間もいっぱい集まり総勢８０人ほどでにぎやかな会になりました。大自然の中でみんなと一緒に大きな声で歌うのは気分爽快、ストレス発散でいいものですよー・・・・・

おまけにJAの林さんが採れたてのきゅうりを差し入れしてくださり、きゅうりをかじりながら、持ち寄ったごちそうを回しながら、飲んだり、食べたり、歌ったりと時間の経つのも忘れて７時すぎまでみんなで楽しみました。最後は柴田さんがこの日のために育ててくれたラディッシュや青じそがおみやげになりました。

その後、ホタル見物したい人たちは、残っておしゃべりしながら待ちました。空が暗くなってきた８時少し前から、ふわりふわりとホタルがあちこちに光って現われ大感激・大満足。一同帰途につきました。

この日のために朝から会場の草刈りをはじめ色々準備をして下さった黒田弘志さん、柴田さん、中島さんそして皆さん本当にありがとうございました。また、楽しい企画をやりましょうね。今回参加できなかった方も次回はどうぞ参加して下さいね。　　安井啓子

ホタルコンサートは、天気もよくてたくさん歌い、ホタルも見られ、おみやげに二十日大根もいただいて楽しく過ごせました。

自然観察で、花が３５種類ほど見つかりました。車を止めておく場所の少し下の道路わきにしそ科のイブキジャコウソウがありました。手のひらで花をなでると良い香りがただよいました。スズサイコ(和名は鈴紫胡)でつぼみを鈴に見立てたと言われる花がもう少しで咲きます。城南公民館の館長さんがユウスゲも８月には咲きますと話されました。淡黄色の気品のある花で夕方開いて翌朝閉じてしまいます。

須川の自治会長さんが、今までは花も雑草だと思ってみな刈ってしまったが山野草として花を別な目で見るという発想もあったんだと感慨深げに話されていました。春から行っていれば季節ごとにいろいろな花が見られると思います。ひと昔前までは、オキナグサもあったそうです。須川は自然の宝庫です。　　No.76 斎藤文子

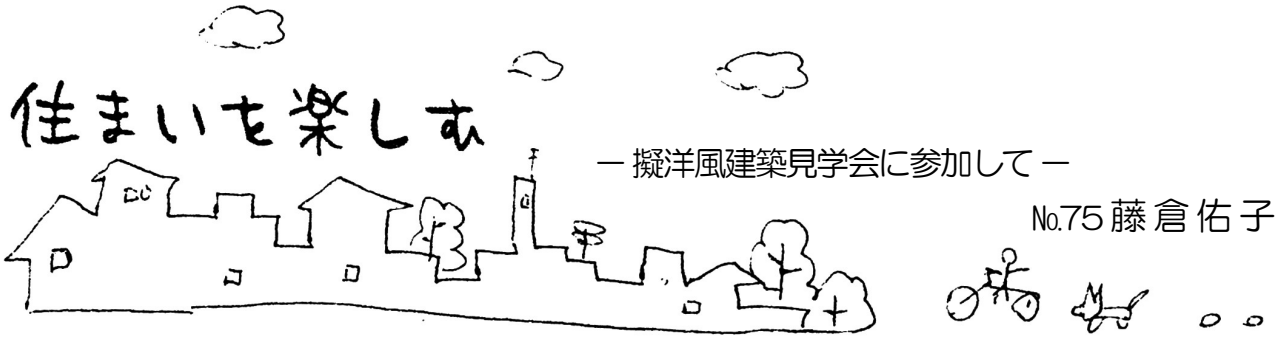
須川の棚田での集いありがとうございました。

25 年ほど前になりますが入学前の子供を連れて上田交通の城下駅から歩いて須川湖へ行った事を思い出しました。確か帰り道は疲れ果ててタクシーを呼んだ記憶があります。そんな須川で田んぼを耕しあそこまでして下さった方々凄いですね。

また、そこで歌を皆で歌おうと企画した方も素晴らしい。 何時もたいした参加が出来ない私ですが･･･ゴメン。地元のギャラリーとも知らず「ま～ゆ」も平均年齢が高くなったなぁーなんて始めは思っていました。あそこまで引き込んでしまう事も凄い!最後の蛍まで見ることが出来なくて残念でした。

お土産に頂いたラデッシュはサラダや葉を煮浸しにして食べました。ご馳走様でした。　時間的に余裕があれば持寄りの食べ物を交換しておしゃべりでをしたかった。又お仲間に入れてください。

ちょっとおみやげを頂いたのは虫に数ヶ所刺されてしまったこと、今日はころころに膨れた手の指にアロエをつけています。夫は庭に撒く木酢を吹き付けて予防していました。側に居た方はきっと臭かったと思いますが効果はありました。　　No.30 布 施



住まいを楽しむ

ー擬洋風建築見学会に参加してー

No.75 藤倉佑子

５月１１日、９時集合で出発の「町並み･･･」に参加他人の家をしげしげと観る･･いえ、見せていただくという会、しかも解説は一級建築士の竹内さん（「ま～ゆ」初参加の時「擬洋館建築の案内できます」といっていた方）、専門家のお話が聞けるとあれば尚のこと、「絶対行く！」と決めていたのに遅刻ですみませんでしたが、遅刻でも参加してよかったです。

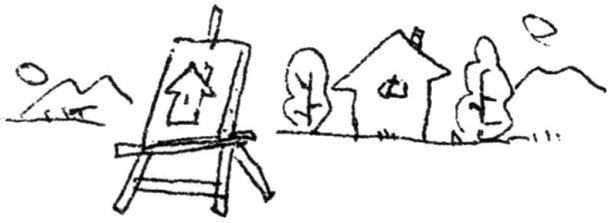
緑が美しく、風も心地よい季節に仲間と一緒に感心したり、驚いたり、過去人に感服したり･･･とても素晴しい時間を過ごせました。身近にあったのにボーっと見ていて観えていなかったもの･･･「知ることって楽しいな」と思った時間です。信大繊維学部の講堂は前に入ったことがあって「いい感じ」とは思っていましたがそれはその建物を造った人々の思いの凄さだったのですね。

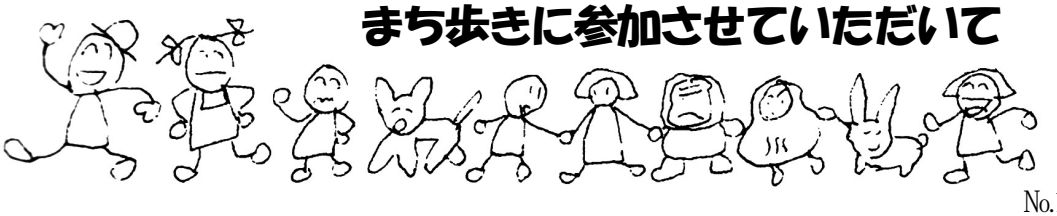
機能美と芸術的な美がひとつの建物に一杯あって、それが人々に家としての安らぎを与えてくれる･･そんな気がしました。でも色はどうだったのかな･･･今は自然とも調和したやさしい色だけれど、もしかしてこれでもかと自己主張した色だったのでは･･？とか思ったりしましたが･･神社仏閣ではないことだしきっと今に近い色だったと思います。レンガ造りの倉庫のような建物ではレンガの積み方に「イギリス式」「フランス式」「ドイツ式」？？とか様式があることを教えていただき、びっくりです。

その背景も知りたいなと思いました･･各国の職人さんたち、交流が無かったのでしょうか？この建物の裏側に大胆にも落書きがあって、がっかりです。（家に帰ってから写真を見て発見）細道にあった民家の屋根の鬼瓦･･猫を模ったものとか･･･ねずみ避けのため･･･当時の人々にとって鬼や蛇よりねずみを避けたいという気持ち凄く納得してしまいました。

松高さんの玄関上のレリーフはおしゃれなものでそこの住人や建築者の住まいを楽しむ姿を羨ましくさえ思いました。そのほかに「民家の板壁」「常田幼稚園」「草間歯科医院」「松高眼科医院」「ゼニヤ写真館」など見学しました。それと「ゼニヤ写真館」や信大の入り口近くにあった「オープンカフエ」にしたいと言っていた建物などは放って置いたら大変なことになるかもしれませんね。どうすればいいのでしょう。

そしてなんといっても楽しかったのは公民館に帰ってきてから「草もち」を作って、皆でいただいたこと･･･「まーゆ」人はエネルギッシュで好きです。竹内さんはじめ企画してくださった方、「ま～ゆ」の皆さんありがとうございました。絵にも描いてみたいなとも思っていますが･･





まち歩きに参加させていただいて

No.117 輿水俊子

私は当日とても楽しみにしていました。ワクワクした気持ち。探偵気分も少し加わり、５月の爽やかな風の中、半日のんびりとした旅をしてきました。いつもとは違う時間の流れの中にいました。

まち歩きのルールは「それぞれの目でいろんなものを発見し、発見したものは、皆に伝える（良いところを）」と、いう事を教えて頂き、材木町の中央公民館をスタートしました。

竹内秀夫さんの案内で、常田の上田蚕種協業組合、信大繊維学部倉庫、信大繊維学部講堂、信大繊維学部旧千曲会館、信大繊維学部守衛室、旧白光舎クリーニング店、旧草間歯科医院、常田保育園・・・。中央に入り旧ゼニヤ写真館を見て歩きました。明治から戦前に建てられた近代建築です。中心市街地に残る擬洋風建築の一つ一つの建物について、いつ頃建てられたものか、屋根の形式は、どんな屋根か、外壁は・・・、構造は・・・、特徴は何か、設計は・・・と専門的な解説をしていただきました。

ふだん車に乗って、あっという間に通り過ぎていたなじみの街も、車を降り、自分の足で歩くことによって、初めて目にした建物や木々、草花や、風景がありました。それは喜びであり、驚きであったり・・・感動です。

いろいろ教えてくださった参加メンバーの皆様、案内してくださった竹内さん。このまち歩きに誘ってくださったま～ゆの会に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ちょっと気になる建物、お店、小路があったら散策してみませんか？きっとステキな発見や出会いがあると思います。

「炭の文化と森の文明」

炭焼きプロジェクト報告
田中敏夫（キタロー、No6）

竹炭焼きをした。一度、やってみたかったんです。三重県の山奥が私のふるさと。四年前には、家氏さんと真田町のたいかまを見に行ったくらいです。できた竹炭を煎き、早速、家庭菜園に使いました。竹酢液も散布しました。（竹酢液使用説明書がほしい方は、どうぞ）

＜5月18日(日)、かまの修理＞

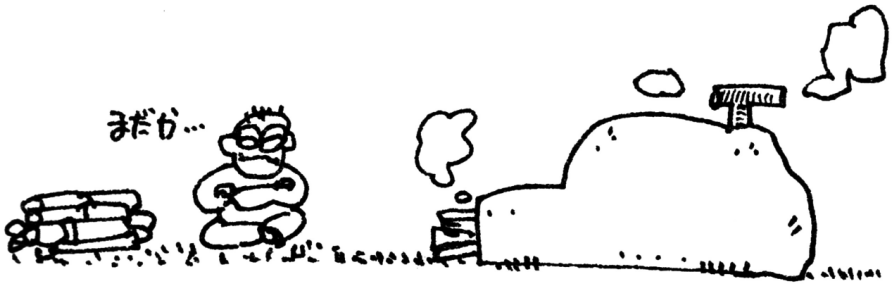
丸子町萩窪の中村修さん宅（42・4808、民宿明治館、150年前の造り酒屋）の庭の隅に、六年前につくったかまの入口部分が崩れてしまった。15才から長門町の山で炭を焼いた中村さんと、城下さん（丸子町商工会）と三人で、修理をした。天井部分の石は、どう積むんだろう、と興味津々でした。両端から一つ一つかみ合わせて積みあげました。昔は粘土でしたが、今は耐火セメントですき間を詰めました。何年も使うと、ゆるみが出て崩れるそうです。

＜6月6日(金) 竹を立て、かまに火入れ＞

かまの大きさは、3m×2m×高さ1.2m くらいです。冬、山から切り出しておいた竹を、おおよそ1mにし、20本くらいを1束にします。かまの中に置いた竹束を、外から小道具（2m ほどのニツ又）を使って立てるのです。38束を立てると、かまの中がほゞ一杯になり、入口側の残ったすき間に、燃料となる木（ナラなど20本）を立てます。かまの上に、清めの塩を置きました。夕方4時、木に灯油をかけ、火をつけました。5時、かまの入口を水でねった土でふさぎ、10cm 間隔で空気穴をあけた。煙突から、ほんのわずかに辛い臭いがする煙が出始めます。

＜6日7日(土) 燃料の木を足す＞

早朝4時、入口のナラなどの木は燃えつきていた。ぬった土を半分ほど落として、燃料となる木を足し、火をつけた。それを、10時と13時にくり返す。夕方5時、竹の水分が抜け炭化が始まり、辛い臭いをした煙が本格的に出始めた。再度、かまの入口をねった土でふさぎ、空気穴をあける（このあけ方が微妙とのこと）。



〈6月8日(日)　かま出し〉

早朝3時、白くて辛い煙がさかんに出ている。

朝6時、かまの中で竹の割れる音（ドカンとすごい音）が、1時間半ほど続く。

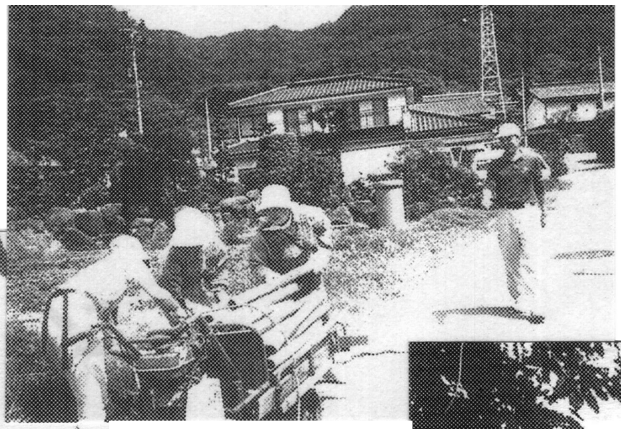
朝7時半、音がしなくなり、入口の穴からも青い煙が出始め、中の竹がまっ赤に変わる。　空気を入れすぎると、中の竹が崩れてしまうので、勘が頼りの仕事です。まっ赤な火を見ると落ちつきます！

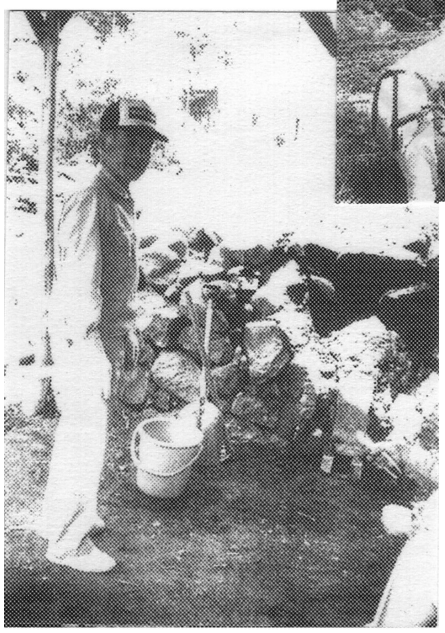
11時、自在カギのような小道具で、中から竹をかき出す。　すぐ、焼いた土をかける（かけないと燃えつきてしまう）。　東信ジャーナルと丸子ケーブルテレビの方が、取材に来てくれました。

できた竹炭は、約60kg。竹酢液は、約15ℓ。　参加者10人で分けました。　次の炭を焼くために、午后は、竹の束をつくって、かまの中に立てました。夕方、中村さんが火を入れ、6月11日にかま出しをしたそうです。そして、山から竹をきって、次のかまを！

竹炭と竹酢液は、さしづめ森の文明と言えます。　化石燃料文明とは違うもう一つの文明です。

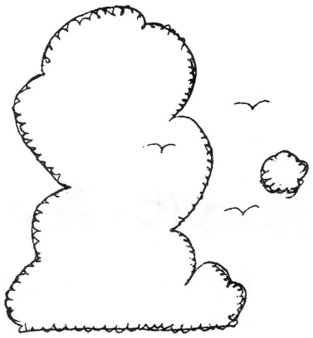
中村さんちの、おいしい米、おいしい湧水（独鈷山から引いている）、おいしい野菜をいただくと、心も身体も健康になれますヨ。





ま～ゆな日々

№7 のび太



Ａさんは定年退職後脳梗塞を患い、週一回奥さんの付き添いで福祉施設へリハビリに通っている。私の勤めは交代勤務をしているので、空いている半日を使って、反対勤務のＢ君と交代で、つまり私は隔週でＡさんの送迎のお手伝いをしていた。

先月のある日突然、社内の移動があり交代勤務から外れてしまった。ちょうど翌日私が当番の日で、そのことをお伝えすると、とてもガッカリの様子。いつもは施設に着くまでいろいろな話をするのだが、今日は寡黙のＡさん。勤め先の都合とはいえ、こちらも申し訳ない気持ちでいっぱいになる。奥さんは気を使って「ちょうど施設でも送迎車の話をいただいたので、早速相談してみます・・」とのこと。

帰りの時間まで３時間ほどあるのだが、家に帰ってもどうも落ち着かない。送迎をしているまーゆ会員、鬼太郎さんに相談しようと電話を入れると運良く在宅中だった。事情を話すと「毎週は無理かもしれないけど、サポートに何人かつけば代われなくもない、きょうは空いているから帰りの車に同乗しようか」とうれしい返事をいただいた。

早速施設に電話を入れ、付き添いの奥さんを呼び出していただいた。私たちの代わりの方を紹介できますが、どうしましょうかと話すと、「今施設の送迎を申し込んだところだけど、施設の送迎は車椅子に乗ることが条件となり、主人は嫌がっているので、代わりの方がいればぜひお願いしたい」とのこと。

動作がゆっくりでもクルマには１人で乗り降りできるＡさんを奥さんも私もなるべく手を貸さないようにしていた。それはＡさんの尊厳を守ることでもあると思ったからだ。迎えに同乗するべく駆けつけてくれた鬼太郎さんと、そんなこんなの引き継ぎを行った。

送迎ひとつ取ってみても、受ける側は多様だ。豊富なメニューからその人なりの希望がかなえられるサービスがあったらどんなに良いだろうか。

「ありがとうございます、ほんとうにありがたいことです JA さんからはいつも心のこもった感謝の言葉をいただいていた。クルマから降りても見えなくなるまで深々とお辞儀の姿勢をくずさない。「

あなたの喜びは私の喜び」と感じるときでもある。It,s my pleasure の精神であふれ、それで支え合う社会はきっとあたたかい。

ずく出して、自治 60

参加 そして主役へ

「カネの縁」より「人の縁」で

「お知恵拝借　空き店舗活用」。上田市の前田光俊さん(六二)が壁に呼びかけ文を張った。

六月十日夜、市中央公民館。約百三十人が登録する地域通貨グループ「蚕都（さんと）くらぶ　まーゆ」の市だ。地域通貨「まーゆ」を使い、お互いができるサービスを交換し合う。二年前の十一月に発足して以降、月一回集まっている。

約三十人の参加者を前に前田さんは説明した。「店をつぶすことにしました。地域に開放して、人が集まる拠点にしたい」。商売を支えてきた「カネの縁（えん）」からの決別宣言だった。

上田市秋和の卸団地で営む婦人衣料卸店。前田さんは今月末で、自主廃業の手続きを取る。

団地に店を構えて三十五年。産業の構造変化とともに、売り上げが落ち込んだ。取引先だった小さな商店は大型店に押され、次々と店を閉じていく。安価な商品を求めて独自の仕入れ先を開拓していく大型店に、中間業者が入り込む余地はほとんどなかった。

廃業は五年ほど前から考えるようになった。もうけが価値尺度の中心に置かれるビジネスの世界。「その時には、金払いの良しあしで判断するような価値観からも抜け出したい」。「人の縁」を結ぼうという「まーゆ」に出合ったのは、そんな時だった。

廃業―店を開放

この一年半、やり取りを記帳してきた。肩を痛めた時に屋根の落ち葉掃除を頼んだ、パソコンで名刺を作ってあげた…。約五十回分を記録できる通帳は三冊目。「金も地位も関係なく相手に何ができるかで人がつながっていく」。その先に地域再生の芽があるという、手応えも感じている。

廃業した店舗をどう使うか知恵を絞ってくれる人を募った前田さんの張り紙には、会員九人が応じた。

「一人暮らしのお年寄りが集まり、お昼を食べられる場もいいな」

前田さんの母親は、年を取るにつれて外出がままならなくなり、昨年、寂しそうに愚痴をこぼして亡くなった。社会の片隅に追いやられたお年寄りの孤独感を、人と人を結ぶことで和らげたい。

九人との話し合いはこれから。「人の縁」を大事にして、自由な議論を重ねたいと思う。

まーゆ会員で長野大学（上田市）の研究生竹内充さん(三)も、前田さんの話に可能性を感じた。

十日後の二十日、上田市下之郷の長福寺にある旧保育所の建物に、学生たちと集まり、地域通貨についても議論した。

四月に発足させたグループ「学生　地域くらし創り考房」の運営委員会（十三人）。竹内さんは代表だ。

竹内さんは指導教員だった古田睦美助教授に紹介されて、まーゆの活動に参加した。農家の物置の片付けを手伝ったり、地域の役に立っているという実感があった。「誰でも地域で主役になれるんだ」。そう感じた。

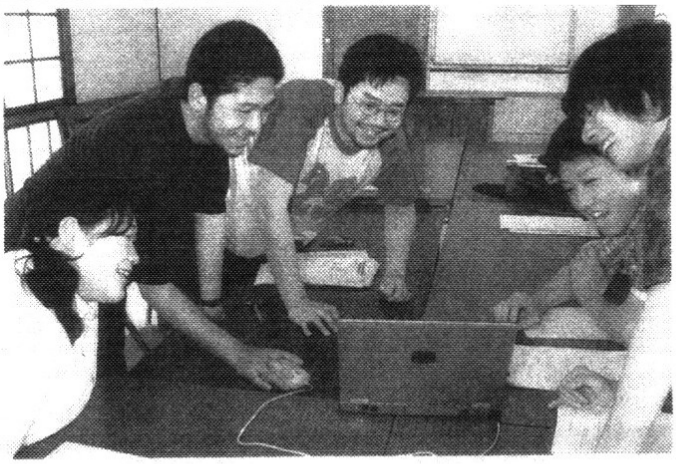
今春まとめた卒業論文で、会員約百人にアンケート調査し、取引状況を調べた。「みそ作りの講師」「話し相手」といったやり取りもしていた。

「市場経済では評価されてこなかったものが評価されている」と分析し、「新たなコミュニティー形成のツール（道具）として機能している」とまとめた。大学の「ベスト卒論賞」を受けた。

「社会に出る前に、地域通貨の可能性を確かめたい」。そう思い、大学に残った。

四月に、学生と地域住民との交流の場として、旧保育所を家賃無料で借りた。とりあえず建物を補修し、秋には地域通貨の試行を始めたい。いずれ循環型農業や地産地消も…。構想が膨らむ。

「お年寄りも、政治から離れがちな若者も、その年代なりの考えを出し合う場にしたい」。竹内さんらの模索が始まる。



持ち味発揮

開設準備中のホームページをのぞく竹内充さん（左から２番目）。「学生　地域くらし創り考房」の活動が、学生たちと地域とを結んでいく＝６月20日、上田市

「まだこれからなのに」。多くのま～ゆ会員が取材を受け、貴重な時間を割かれたのに…。2年目を迎えて、順調に進んでいる「田んぼプロジェクト」等を差し置いてまで半熟状態の私の構想が大きく取り上げられ、どぎまぎしています。

この取材中『カネの縁より人の縁で』が「ま～ゆの人たちには理解できても、一般の方にどれほど分かってもらえるだろうか？」変人的な振る舞いの多い私は正直なところ記事になり名前が載ることに怖さがありました。でも、これからの時代は「確実にこういう方向に向かうのだ」と信じて、世間に認知してもらえる好機と考えたのです。みっちゃんの「学生 地域くらし創り工房」と相まって、暮らしやすく、楽しい地域になってほしいと願っています。　都々平

「ずく」ものごとに立ち向かう気力や活力、勇気などを表す長野県の方言

第7部　地域再生の試み　4

ま～ゆな人　横山孝子さん　No..22

今回ご紹介するのは会員番号 22 番の横山孝子さんです。

現在、横山さんは長野大学の社会福祉学部の助教授をされています。助教授になる前は佐久病院の健康管理センターで保健婦として働いていたそうです。

主には地域の方の健康診断や健康相談、病気予防のための健康教育などをしていたそうです。その頃のお話の中で特に印象的だったのは高度経済成長期に多くの農家の方が農薬で健康被害にあっていたとのお話でした。水銀などで農薬中毒になった方々を何とかしたいという思いから、自分たちで農薬中毒の映画を作り、農薬の水銀使用を禁止しようという運動をした事もあったそうです。

保健婦をしていた横山さんが地域通貨と出会ったのは平成9年ごろに滋賀県で行われている地域通貨「おうみ」の話を聞いたことだったそうです。その頃ちょうど使い捨て社会の問題に対して何かよい方法はないのかと考えていた横山さんは「これだ!」思って、どこかでできないかと思いを暖めていました。

そして、思いを持ち続けながら定年で佐久病院を去ることになったときに長野大学からの教員になってほしいという依頼と、長野県八ヶ岳の JA から健康福祉の立ち上げをしたいから手伝ってほしいとの依頼がありました。

横山さんは長野大学の教員として働くのと同時に、自分が暖めていた地域通貨の構想を八ヶ岳の JA でやってみたらどうだろうと考えました。

そんな中、八ヶ岳 JA が暮らしの実態調査をしました。調査では 82%の人が JA で助け合いの活動をやってほしいと結果が出ました。そこで農協も何か要求に応えなくてはというところに横山さんが抱いていた地域通貨の構想がぴったりとはまり、JA の女性部を中心に「ハート」という名前で地域通貨を始めようという事になりました。現在は地域のお年寄りや福祉施設、JA 女性部を中心に運用しているようです。

まーゆとの関わりはどのようにして行きたいですかとお聞きしました。横山さんは学生がまーゆに参加するための橋渡しになりたい。学生がもっとまーゆに参加してまーゆの方々からもっと学び取ってほしいとのことでした。

最後にまーゆは今後どうなっていけばいいですかとお聞きすると、まーゆが素敵なのは不便なところを楽しんでやっている事がすばらしいところで、これからはまーゆというつながりから他の団体をそだてたり、いろんな地域に助け合いの行き方を広めていくような会になってほしいとのことでした。

(記:みっちやん)

8月10日 ジャガパー

まーゆ世話人会へ気楽に参加して！

月一回、熱勝さんで開催しています。あなたのアイデアと熱意がどんどん形になるよ！詳しくはHPか代表へ連絡を！

飯山の「芽ぶきの会」の皆さんと交流しましょう！

- 8月28日(木) 時間：PM 1:30～3:30(予)
- 中央公民館第1会議室

飯山市農村女性団体「芽ぶきの会」の皆さんがまーゆを視察、交流します。ぜひ多くの方の参加を！

ま～ゆ会報ここに置いてあります！

- □ **フリーマーケットのんどり**
  TEL 26-9355
  上田市上田原・華龍飯店となり
- □ **上田市立図書館**
  TEL 22-0880
  上田市材木町１丁目
- □ **熱　勝（ねっしょう）**
  TEL 29-3880
  上田バイパス秋和・長野県酒販前
- □ **甲田はきもの店**
  TEL 22-1272
  上田市中央４－６－２４

7/5 須川自然観察のつどいです